

中部ニュース

シネスコ版

高新=ス No. 398
新演=ス No. 226

No. 563

特 集

一、オリンピック東京大会終了

世界の若人の祭典オリンピックもあと四日といよいよ近づいてきた十月二十一日オリンピックの花マラソンはまったく不信の日本陸上陣にとって日の丸の期待出来る最後の種目となりました。だが日本期待の円谷、君原、寺沢の三選手もローマ大会のアベベの前には敵ではなかったようです。甲州街道を最初から最後まで一人で突走ったアベベは二時間十二分十一秒の世界最高オリンピック史上初の二連勝を成し上げたのです。

不振の水上、陸上に振いたった男子体操は遠藤の個人総合優勝をはじめ五つの金メダルを獲得大いに気をはきました。

そして女子バレーボール決勝ソビエト対日本では、日紡を主体とする日本チームは一方的にソビエトを下し「魔女」健在なりを世界に示しました。これで日本の獲得した金メダルは十六個参加国中、米、ソに次いで三位となったのです。

十月二十日閉会式、十五日間の競技日程は全て終了しました。

たまたかい終ったいま若者達に勝者も敗者もなくハダの色も国籍も越え閉会式にのぞむ、楽しい世界若者達、スタンドとフィールドをむすぶ熱いいぶき、十五日間燃えつづけた聖火はかぎりない感動と思いつく残して美しく消えてゆきました。

こうして世紀の祭典は数々の種目を競い終えた世界の若人達。日本選手団も勢一ぱい頑張りました。苦闘に堪えた百万ドルは女子バレーの「魔女達」。宿敵ソ連チームの「力」を「技とチームの和」で制したのでした。この勝利はあの厳しい銀鍊が生んだ不屈の魂は大いに讃えられたのです。

また全競技を終えた外国選手団は日本の休日を楽しんでいます。日本古来の伝統に触れて、ただ感激するばかり。歌舞伎座で十八番「しがらき」を、観劇。楽屋で女形の本性をみて、二度驚きのゴールド・メダリスト英国のバーカー選手。

また日本だけのスポーツももう「豪快な体格にビックリしたり、ほればれと見とれたり、日本の素晴らしさを満喫していました。

風に舞う落葉の音と共に一層寂しくなるばかりの代々木選手村。栄光と誇り、挫折と恋が折りなす東京の青春の村の灯は消えて行きます。大きな足跡と多くの思い出を残して、はや帰国の途に選手団。

羽田空港は世界を強く結んだ若いきすがすがしい別を一層強く感じさせていました。

620 F

製作 中部日本新聞 東京中日新聞
配給 北陸中日新聞 中部日本ニュース映画社